

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
1年前期	1	2	必修
担当教員			
林 英昭			
添付ファイル			
講義概要			
現代建築は図面によって創造され、図面に基づいて情報が共有され、図面に基づいて建築される。図面は全ての建築行為の基礎である。本授業では基礎的な図形描画、透視図の各種図法、模型制作、住宅設計図面の製図等の課題を通じて、建築設計製図の基本を学ぶ。製図用具の使用法、立体表現の技法、建築模型の制作技術、設計製図を体験的に学び、建築設計製図に必要とされる技術技能の基礎を養う。			
授業計画	1	建築製図の基本 概要説明・平行定規の使用法・製図のルールを学ぶ (AL③④) 【課題の内容】作図の練習	
	2	製図用具の使い方 簡便な幾何学の作図により製図道具の説明を行う。 翌週までに課題を完成し提出する (AL③④) 【準備学習と課題の内容】作図の練習	
	3	線種の描き分け (1) 小課題を描画し、線種の描き分けを学ぶ 翌週までに課題を完成し提出する (AL③④) 【準備学習と課題の内容】作図の練習	
	4	線種の描き分け (2) 小課題を描画し、線種の描き分けを学ぶ 翌週までに課題を完成し提出する (AL③④) 【準備学習と課題の内容】作図の練習	
	5	立体表現 (1) アクソメ・アイソメ図法を学ぶ 翌週までに課題を完成し提出する (AL③④) 【準備学習と課題の内容】作図の練習	
	6	立体表現 (2) 模型制作の基礎を学ぶ 翌週までに課題を完成し提出する (AL③④) 【準備学習と課題の内容】模型制作の練習	
	7	立体表現 (3) 二点透視図法 (外観パース) を学ぶ 翌週までに課題を完成し提出する (AL③④) 【準備学習と課題の内容】作図の練習	
	8	立体表現 (4) 一点透視図法 (内観パース) を学ぶ 翌週までに課題を完成し提出する (AL③④) 【準備学習と課題の内容】作図の練習	
	9	名作建築を学ぶ (1) 名作建築をトレースにより学ぶ (平面図 1)。 建築および建築家について学ぶ。 建築空間の表記方法を学ぶ。 翌週までに課題を完成し提出する (AL③④) 【準備学習と課題の内容】課題の作図を進める	
	10	名作建築を学ぶ (2) 名作建築をトレースにより学ぶ (平面図 2)。 建築および建築家について学ぶ。 建築空間の表記方法を学ぶ。 翌週までに課題を完成し提出する (AL③④) 【準備学習と課題の内容】課題の作図を進める	
	11	名作建築を学ぶ (3) 名作建築をトレースにより学ぶ (梁行断面詳細図 1)。 建築および建築家について学ぶ。 建築空間の表記方法を学ぶ。 翌週までに課題を完成し提出する (AL③④) 【準備学習と課題の内容】課題の作図を進める	
	12	名作建築を学ぶ (4) 名作建築をトレースにより学ぶ (梁行断面詳細図 2)。 建築および建築家について学ぶ。 建築空間の表記方法を学ぶ。 翌週までに課題を完成し提出する (AL③④) 【準備学習と課題の内容】課題の作図を進める	
	13	名作建築を学ぶ (5) 名作建築をトレースにより学ぶ (正面・背面立面図 1)。 建築および建築家について学ぶ。 建築空間の表記方法を学ぶ。 翌週までに課題を完成し提出する (AL③④) 【準備学習と課題の内容】課題の作図を進める	

	<p>14 名作建築を学ぶ（6） 名作建築をトレースにより学ぶ（正面・背面立面図2）。 建築および建築家について学ぶ。 建築空間の表記方法を学ぶ。 翌週までに課題を完成し提出する（AL③④） 【準備学習と課題の内容】課題の作図を進める</p> <p>15 名作住宅を学ぶ（7） 世界の名作住宅の個別の作品についてその建築と建築家について学ぶ 各種図面や模型等の表現について学ぶ（AL③④） 【準備学習と課題の内容】課題の作図を進める。個別の建築作品についての文献調査</p>
授業形態	<p>学生は製図版、三角定規、コンパス、シャープペンシル等を用いて、製図を実習する。授業では単に作図法を学ぶだけでなく、作図に関連する建築的なトピックスに関しても学ぶ。</p> <p>アクティブラーニング：①15回、②0回、③15回、④15回、⑤0回、⑥0回</p>
達成目標	<p>(1) 基本的な図形描画ができる（基礎） (2) 基本的な透視図の描画ができる（基礎） (3) 基本的な形の模型の制作ができる（基礎） (4) 名作建築の設計図面を正しくトレースし、適切な建築図面の表現ができる（応用） (5) 建築空間の正しい3次元表現ができる（応用）</p>
評価方法・フィードバック	<p>各課題の提出物についてそれぞれ理解度および達成度を評価し、それら各課題の評価の合算によって最終評価を行う。ただし、ひとつでも未提出の課題がある場合は評価を「不可」とする。全ての課題作品は指示される期日までに提出しなければならない。課題の提出・返却時にフィードバックを行う。</p>
評価基準	<p>総合点が100点満点で60点以上の者に単位を与える。</p> <p>秀（1～5）：90点以上 優（1～4）：89～80点 良（1～3）：79～70点 可（1～2）：69～60点 不可：59点以下</p> <p>ただし、カッコ()内は、達成目標の項目を示す。</p>
教科書・参考書	<p>教科書：水谷俊博・水谷玲子『建築家の自邸に学ぶ設計製図』彰国社、2018年 参考書：中山繁信『スケッチ感覚でパースが描ける本』彰国社、2012年</p>
履修条件	<p>表記方法への理解力と立体空間の認識力が優れていることが望ましい。</p>
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・製図用具一式を持参すること ・課題に使用するケント紙、模型材料、画材等は各自で用意すること ・自宅学習用に製図板（A2版で良い）を準備すること ・表記方法を学ぶだけでなく、図書館等にて雑誌や書籍などに目を通し、積極的に建築的知識を学習すること
準備学習と課題の内容	<p>題材となる建築物について図書館などで事前に理解しておくこと。 製図の仕方などは、事前にテキストに目を通して、予習しておくこと。 (毎回、予習復習それぞれ1.5時間程度)</p>
ディプロマポリシーとの関連割合（必須）	<p>知識・理解:40%, 思考・判断:10%, 関心・意欲:10%, 態度:10%, 技能・表現:30%</p>
DP1 知識・理解	
DP2 思考判断	
DP3 関心意欲	
DP4 態度	
DP5 技能・表現	